

The 9th OXIDATIVE STRESS · ANTIOXIDANT SEMINAR

# 第9回 酸化ストレス・抗酸化セミナー

## プログラム抄録集

## Program & Abstracts



～ 酸化ストレス・抗酸化力測定による予防医学と健康への貢献～

Contributions towards Preventive Medicine and Health by the assessment of Oxidative Stress and Antioxidant test

---

会期：2011年5月22日(日) 13:00～18:00

May 22, 2011 (Sunday) 13:00～18:00

会場：丸ビルホール(丸ビル7F), 東京

Marunouchi Building Hall (Marunouchi Building 7F), Tokyo JAPAN

主催：ウイスマー研究所 / 株式会社ウイスマー

Organized by Wismerll Institute, Tokyo

# 第9回 酸化ストレス・抗酸化セミナー

## ～酸化ストレス・抗酸化力測定による予防医学と健康への貢献～

会期：2011年5月22日（日）13:00～17:30（受付 12:20～）

会場：丸ビルホール（丸ビル7F）、東京

主催：ウイスマー研究所 / 株式会社ウイスマー

### ◆ セミナープログラム ◆

12:20 受付開始

13:00 **開会** 主催者挨拶

ウイスマー研究所 代表 **関 泰一**

13:10 **講演 1** 『Carratelli 評価法の歴史と新規テストの紹介』

ディアクロンインターナショナル 専務取締役 製品開発部長 **Filippo Carratelli** 先生

13:25 **講演 2** 『心血管病における酸化ストレス / 抗酸化力測定の意義』

名古屋大学大学院 医学系研究科 循環器内科 特任講師 **柴田 玲** 先生

13:40 **講演 3** 『高齢者診療における d-ROMs test の測定意義』

ひつもと内科循環器科医院 院長 **櫃本 孝志** 先生

13:55 **講演 4** 『非ホジキンリンパ腫の悪性度を評価する新たなバイオマーカー「酸化ストレス度」』

山口大学大学院 医学研究科 生体情報検査学 保健学科 教授 **野島 順三** 先生

14:10 ..... Break .....

14:20 **講演 5** 『酸化ストレスが唾液の分泌を抑制する』

日本歯科大学 生命歯学部 口腔外科学講座 准教授 **松野 智宣** 先生

14:35 **講演 6** 『日本人一般市民の酸化バランス防御系』

財団法人 国際全人医療研究所 理事長 / WHO (世界保健機関) 心身医学・精神薬理学 教授 **永田 勝太郎** 先生

14:50 **特別講演 1** 『酸化ストレス評価の予防医学と健康への貢献 —世界最新情報—』

国際酸化ストレス研究機構 会長 / ローマ大学医学部 教授 **Eugenio Luigi Iorio** 先生

15:25 ..... Coffee Break .....

15:40 **講演 7** 『脂質診療における酸化ストレス測定の意義』

自治医科大学 医学部 臨床検査医学 講師 **小谷 和彦** 先生

15:55 **講演 8** 『糖尿病における酸化ストレス測定の意義』

国立病院機構 京都医療センター 臨床研究センター 予防医学研究室 室長 **坂根 直樹** 先生

16:10 **講演 9** 『高血圧性血管障害の新規サロゲートマーカーとしての d-ROMs、BAP テスト』

三井記念病院 総合健診センター 所長 **山門 實** 先生

16:25 **講演 10** 『疲労の客観的な評価法 —酸化ストレスの変化—』

関西福祉科学大学 健康福祉学部 健康科学科 教授 **倉恒 弘彦** 先生

16:40 ..... Break .....

16:50 **特別講演 2** 『活性酸素と脳免疫統合系の生存戦略』

宮城大学 理事・副学長 / 大阪市立大学 医学部 脳科学講座 教授 **井上 正康** 先生

17:30 閉会

18:00～19:30 懇親会（於：会場ホワイエ）

# The 9th OXIDATIVE STRESS • ANTIOXIDANT SEMINAR

~Contributions towards Preventive Medicine and Health by the assessment of Oxidative Stress and Antioxidant test~

Date : May 22th, 2011 (Sun) 13:00 ~ 17:30

Venue : Marunouchi Building Hall (Marunouchi Building 7F), Tokyo, JAPAN

Organization : Wismerll Institute, Tokyo JAPAN

## ◆ Seminar Program ◆

- 13 : 00 **Opening Speech** President / Wismerll Institute **Mr. Yasuhiro Seki**
- 13 : 10 **Lecture1 『History of the Carratelli Panel and Introduction of new Carratelli tests』**  
Vice President and Chief / product-development of Diacron International srl **Mr. Filippo Carratelli**
- 13 : 25 **Lecture2 『Clinical significance of the oxidative stress markers in cardiovascular disease』**  
Assistant Professor / Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine  
**Dr. Rei Shibata M.D., Ph.D.**
- 13 : 40 **Lecture3 『Significance of the d-ROMs test in elderly persons』**  
Director / Hitsumoto Medical Hospital **Dr. Takashi Hitsumoto M.D.**
- 13 : 55 **Lecture4 『New biomarker "oxidation stress degree" to evaluate a malignancy of the non-Hodgkin's lymphoma』**  
Professor / Department of Laboratory Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine  
**Prof. Junzo Nojima Ph.D.**
- 14 : 10 ..... Break .....
- 14 : 20 **Lecture5 『Hyposalivation is inhibited by oxidative stress』**  
Associate Professor / Department of Maxillofacial Surgery, School of Life Dentistry at Tokyo, The Nippon Dental University  
**Dr. Tomonori Matsuno D.M.D., Ph.D.**
- 14 : 35 **Lecture6 『The oxidative balance defense system of general Japanese population』**  
Director / International Foundation of Comprehensive Medicine **Prof. Katsutaro Nagata M.D., Ph.D.**
- 14 : 50 **Keynote Lecture1 『Contributions to Preventive Medicine and Health by assessment of total Oxidative stress, and the latest finding in the world』**  
President / International Observatory of Oxidative Stress (Salerno, Italy) **Prof. Eugenio Luigi Iorio M.D., Ph.D.**
- 15 : 25 ..... Coffee Break .....
- 15 : 40 **Lecture7 『Significance of measuring oxidative stress in lipid clinic』**  
Lecturer / Department of Clinical Laboratory Medicine, Jichi Medical University  
**Dr. Kazuhiko Kotani M.D., Ph.D.**
- 15 : 55 **Lecture8 『Clinical significance of oxidative stress marker in diabetes care』**  
Director / Preventive Medicine Laboratory, Clinical Research Center, National Kyoto Medical Center  
**Dr. Naoki Sakane M.D., Ph.D.**
- 16 : 10 **Lecture9 『d-ROMs and BAP tests as a novel biomarkers for hypertensive vascular lesions』**  
Director / Center for Multiphasic Health Testing and Services, Mitsui Memorial Hospital  
**Prof. Minoru Yamakado M.D., Ph.D.**
- 16 : 25 **Lecture10 『Objective methods for evaluating the fatigue state —the association between oxidant stress and fatigue state—』**  
Professor / Department of Health Science, Faculty of Health Science for Welfare, Kansai University of Welfare Sciences  
**Prof. Hirohiko Kuratsune M.D., Ph.D.**
- 16 : 40 ..... Break .....
- 16 : 50 **Keynote Lecture2 『Free Radical Theory of Evolution and Survival Instinct』**  
Vice-president • Trustees / Miyagi University  
Professor / Brain Science Institute ,Osaka City University Medical School  
**Prof. Masayasu Inoue M.D., Ph.D.**
- 17 : 30 **Close**
- 18 : 00 ~ 19 : 30 **Gala Evening** (Venue : Lobby in Holl of the seminar)

**特別講演**

**Keynote Lecture**



## Eugenio Luigi Iorio

ユージニオ・ルイジ・イオリオ

国際酸化ストレス研究機構 (イタリア) / 会長  
ローマ大学 医学部 / 教授

### 【略歴】

ユージニオ・ルイジ・イオリオ博士は、ナポリ大学 (イタリア) の医学部生化学教室の教授を務めた経験を持つ。研究を始めた当初の数年間、炎症細胞の血小板活性化因子



(PAF) 代謝に関する実験的研究を行い、いくつかの研究は、生体液中のアルキルリン酸の独自の検出・計測法に関する特許に至った。その後、気分障害、内分泌学、免疫学、栄養学の関係に関する研究を行った。2005年には、酸化ストレス評価法の専門家として、フリーラジカル及び抗酸化物質に関する基礎研究の臨床診療への導入を主目的とする国際酸化ストレス研究機構 (イタリアのサレルノ) の会長に任命された。国際酸化ストレス研究機構は、世界の35カ国以上に窓口を設けている。



*E. L. Iorio. A recent photo (Qatar).*

イオリオ博士は、臨床時の酸化ストレス評価に関する解析システム (イタリア人化学者マウロ・カラテリによって発明された d-ROMs テスト等) の開発に積極的に携わっている。本分野において、博士は EU の各国 (イタリア、スペイン、スイス、オーストリア、ドイツ、ノルウェー、ギリシア等) に加え、アメリカ合衆国 (ハワイ)、メキシコ、日本や韓国等の東アジアで行われている多くの科学会議で招待講演を行っている。イオリオ博士は、2005年5月には、ダ



*Dr. Iorio (left) with professor Cooper*

ラス出身の著名なケネス・H・クーパー教授 (「抗酸化健康法」の発明者) に特別賞を渡し、2008年4月には、1998年度のノーベル生理学・医学賞を受賞したルイス・イグナロ教授 (心臓血管系における酸化窒素の生物的作用を発見した) と共に国際会議で招待講演を行った。これらの学術的な活動は、酸化ストレスに着目し、酸化ストレスと癌や変性疾患との密接な関係などを論じた100本近い学術論文に凝縮されている。博士は、雑誌「地中海地域における栄養と代謝」の評議会の一員、複数の学術雑誌の論文審査委員、イタリア国内の健康やウェルネス

に関する雑誌の書評家を務め、その他にもイタリア・アンチエイジング医療学会 (AMIA) の会員、複数の文化学会 (イタリア・アンチエイジング薬剤師会、イタリア・クスミン食事療法学会、薬膳協会 [Pharmagourmet]、テッラヴェッキア [Terravecchia]、サン・マルツァーノ [San Marzano]) の名誉会員、科学学会 (国際ゲノム医療学会、国際アンチエイジング医療学会、イタリア生化学分子生物学会、イタリア臨床検査医学会、イタリア臨床病理学会、



*Dr. Iorio (left) with Nobel Prize Ignarro*

イタリア・ラテンアメリカ民間療法研究会)の会員であり、エイズ(HIV)ウイルスを発見したノーベル賞受賞者リュック・モンタニエ教授の指導のもとで酸化ストレス評価法の規格化のために近年設立された欧州活性酸素研究会(ROC)のイタリア会員も務めている。

また、イオリオ博士は、イタリアの保健省の協力の下で、臨床診療におけるフリーラジカル、抗酸化力、及び酸化ストレスに重点を置いた医療に関する継続教育プログラムを年2回提供する活動において主任を務めており、このプロジェクトは最近スペインの薬剤師に向けても展開されている。博士は今年、酸化状態とゲノミクス、リポドミクスの関係に着目しており、これに関しては、2008年12月にスペインで行われた第1回国際ゲノム医療学会において、博士はゲノミクス、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスの分野で得られた知見を臨床診療に導入するためのアプローチ法として「REDOXOMICS」という革新的な概念を発表した。



Dr. Iorio (1<sup>st</sup>, left, stand up) with Nobel Prize Montagnier (1<sup>st</sup>, left)

イオリオ博士は数社の製薬会社と共同で抗酸化サプリメントの効力に関する *in vivo* 及び *in vitro* 評価を行っており、また、酸化ストレス評価結果を臨床診療に応用するためのソフト(WIN OS MANAGER™)を開発した。

博士は、2009年6月5日にはスペインで行われた国際オゾン療法会議(会場:ガリシア地方のピゴ)で、6月6日にはポルトガルのリスボンで行われた第2回イベリア半島アンチエイジング医療会議で招待講演を行った。日本では東京で、第7回フリーラジカル・セミナー(6月28日)において招待講演を行い、また国際人間ドック会議(9月3日)では、日本の天皇陛下臨御のもとに招待講演を行った。2010年の国際会議では、年に一度行われている第9回インド・フリーラジカル学術集会(1月11日~13日)において、インドのハイデラバードにあるマリオットホテル・コンベンションセンターで「フリーラジカル研究の発展と健康を促進する天然物」について招待講演を行った。さらに近年では、PepCon-2010(3月21日~23日に中国の北京で開催)で行われたプロテオミクス世界会議、第8回フリーラジカル・セミナー(4月25日に東京で開催)、第7回ギリシア・フリーラジカル学会国際会議(6月10日~13日にギリシアのスペツェスで開催)で招待講演を行った。

さらに、博士はオリーブオイル、トマト、水牛のモッツァレラチーズ等、地中海ダイエットに関するイタリアの代表的な産物に関する専門家であり、イタリアの伝統的な手作りピザを研究している国内で最も著名な学者である。これに関して人 Cosimo Mogavero と共にリア規格協会により世界で初「ナポリタン・ピザ」(認定番(2001年7月、ローマ)、そ(2002年6月、リミニ)、世しくは「老化防止ピザ」)(2005ピザに関する研究結果は、第2(MEDIET)(2005年4月、が発表した。博士は、さらにマルツァーノ・トマトのエキスの抗炎症特性を実証した(*Free Radical Res Biol Med*, 2004)。最後に、イオリオ博士は、有名な「フジッリ(fusillo)」(2003年、イタリアのフェリット)等の伝統的な手作りピザを認定し、ギネスブックに申請された巨大な「スフォルアテッラ」(イタリアの代表的な菓子)及び巨大な「パスオッツォ」(ピザに似たイタリアの代表的な食品)制作の審査員を務めた。

